

“平和”を問い続ける沖縄

～応答するために～

元沖縄県知事

大田昌秀さん講演会



【大田昌秀（おおた・まさひで）氏プロフィール】

元沖縄県知事。前参議院議員。現在大田平和総合研究所主宰。1925年、沖縄県久米島に生まれる。1945年、沖縄師範学校本科2年在学中に鉄血勤皇師範隊の一員として沖縄守備軍に動員され沖縄戦に参戦、九死に一生を得る。1954年、早稲田大学卒業。その後、ニューヨーク州シラキュース大学大学院修了（ジャーナリズム修士号取得）。東京大学新聞研究所で3年間研究。1973年、ハワイ大学イースト・ウェストセンターで1年間教授・研究。1979年、フルブライト交換教授としてアリゾナ州立大学で1年間教授・研究。1957年～89年、琉球大学教授、法文学部長。1990年沖縄県知事に就任。2期8年勤めた後、参議院議員として6年勤め、現在は大田平和総合研究所主宰。

日時：2010年11月14日（日）午後2時～4時

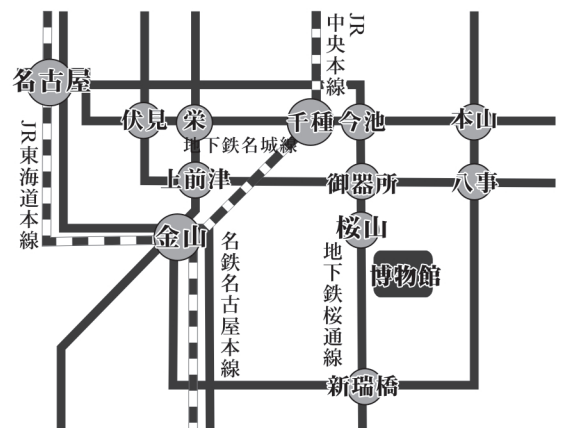
場所：名古屋市博物館 講堂

（名古屋市営地下鉄桜通線「桜山」下車、4番出口から徒歩5分）

参加費：1000円

昨年、政権に就いた民主党連立政権は、迷走を重ねた挙句、多くの沖縄の人たちの期待を裏切り、普天間基地の移設先を名護市辺野古沿岸とする「日米合意」を行いました。しかし、1月の名護市市長選の辺野古への移設反対を上げた市長の誕生、4月には9万人が集まった県民集会、そして、9月の名護市議選においては移設反対の議員が過半数をしめ、普天間基地の「県内移設」には明確に反対の声を上げています。政府は、日米安保条約で米軍基地の存在を容認し、沖縄に基地負担を押し付け続けています。

いま、日本政府に問われているのは、米軍基地の再編見直しではなく日米関係の見直しです。同時に、平和憲法下で活動する私たち自身の活動も問われています。いまこそ日本政府に日米関係を見直し、アジアの平和共存をつくるための活動を築いていきましょう。その一環として、11月11日から今後の日米関係の帰趨を左右する沖縄知事選があります。“平和”を希求する想いを、大田昌秀氏からお聞きし、私たちにできることを考えます。多くの方の参加をお待ちしています。



地下鉄桜通線桜山駅下車4番出口から徒歩5分
または市バス金山14番系統で博物館下車

【呼びかけ】

- NoBase辺野古☆名古屋
- 命どう宝あいち
- 日本聖公会中部教区沖縄プロジェクト
- 不戦へのネットワーク
- 東海民衆センター
- 名古屋YWCA